実篤の友だち～志賀直哉～

左：実篤　右：志賀直哉

志賀直哉って…？　実篤と同じ白樺派を代表する小説家の一人です。明治～大正時代に活躍しました。
代表作：『暗夜行路』、『小僧の神様』、『城の崎にて』

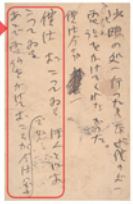
2人のヒストリー

実篤	
17歳 1902	志賀が２才年上ですが留年し、実篤と同級生になりました。２人とも文学が好きで、仲良くなりました。
20歳 1906	**遠慮なく何でも言い合える仲** お互いの作品についてきびしい意見もそのまま言うことができるほど、信頼し合っていました。２人で富士山周辺を、時には野宿をしながら徒歩でまわる旅行をしたこともあります。
23歳 1908	**ケンカもするけどちゃんと仲直り** ２人は仲良しでしたが、ケンカもしました。志賀あての手紙に「僕はおこっている、ほんとにおこっている、あとで電話をかけておこるが今はハガキで怒る」と書いています。
24歳 1910	志賀の強い勧めで実篤は初めての本を出版。後に一緒に雑誌『白樺』を発行しています。 **遠くに住んでいる時もお互いの作品を読みあっていました。**
86歳 1971	志賀が亡くなるまで約70年も親友でした！

徒歩旅行のとき
1906（明治39）年４月

『荒野』初めての出版
1908（明治41）年
23歳

『白樺』創刊
1910（明治43）年
24歳



※当時は電話がつながりにくく、手紙は１日に何回も配達されたので、早く届きました。
1909（明治41）年９月29日

君たちもこういう友だちができるといいね！